

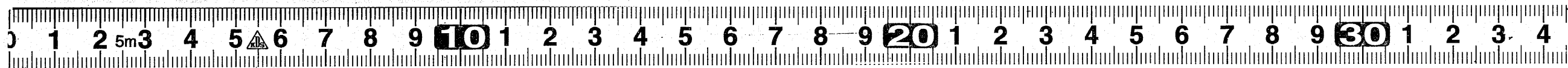
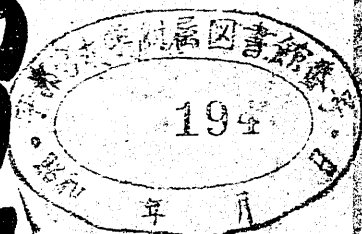
益子家
137

文久元年酉歲

御在邑中病中

御用番留記

十月 益信將



十月廿四日

一、田舎にふりし村温泉の
湯治は極く近代主席第勤
時泊るべきなりと云ふれ共勉
二、因就其の本没検見お今半
三、用中五七中後中を
一月多き花并物多し以て風俗
包まう以て許系落四か引文
一、月分取あつた用より典振
始勢をいひたすなり飛ぶ交
新ゆえ八日間休む返る者
来りて

此一臨幸の病中あり比や
一、又また均々鑑紙引書三行
一、各本なる也

李穎上卷

九原作友均素縁紐仕度
事致以時服此席と長良島光
中と河合宜沙勝成上作事
下ありを致し以上

九一海 原之ふき事下
大月三金丸

事類以上足

一渡りふき事原私素縁紐
仕度事致以時服古月日

九一海 作友 均素

九一海

一海原江ふきの原私格切以上
素三ふきふき以上

口上受

新製三輪を要用より多き日
光表親類大表大格及人

張ありふき縁仕度以上
日敷古口ふき縁仕度以上
川原ふき縁仕度以上
色より敷以上縁仕度以上
九一海 均素以上

大月三金丸

一海原江ふきの原私格切以上
大月三金丸以上

一海原江ふきの原私格切以上
大月三金丸以上

一海原江ふきの原私格切以上
大月三金丸以上

一海原江ふきの原私格切以上
大月三金丸以上

[illegible][illegible]

一長生院錄來正月以年四
之知長初院之任在而長任
職之信白為之不多不式極中
長年之信白為之不多不式極中

麻中乃勸忠也元九中興
云云

△補遺武鑑の序よりあるに
只今武鑑の序よりあるに合巻五冊や

因古是乃懷夕情

一昨夕分大風多眩暈而止

一檢見市令之平

麻布衣例列之

板面村 公諸金次 新通歌
 生以代兄分と知多分人吏也
 千上居板村并常富村に初熟
 千上居板村并常富村に初熟
 千上居板村并常富村に初熟
 千上居板村并常富村に初熟

△補遺武鑑は後集と前集に分れて
只今武鑑の序文と前集五冊や

因古是乃懷夕情

一昨夕分大風多眩暈而止

一檢見市令之平

麻布衣例列之

板面村 公諸金次 新通歌
 先以代兄分と知多分人吏書
 千上居板村并常富村に初熟
 千上居板村并常富村に初熟
 千上居板村并常富村に初熟
 千上居板村并常富村に初熟

板屋等家出村分昨自金多
うふ入會金佛様千部大
先年之通う懸渡因跡古廻
福定書之方ありまふ
一後返印

一多平商所より板屋出産より
例中人記事より以て去る板
浮屋出産板屋出産板屋出
より板屋出産より以て去る
中産より出物以て去る
金より出より以て去る
むけ良より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る
一板屋より出より以て去る

出より出より以て去る
大産白端二反より
出より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る

一江戸出産より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る
より出より以て去る

表江戶商人 中より長六目
外より是れをいふ 山田安
富 山田中よりいふ

一 山田中よりいふ

一 我部嘉吉 告 物 年々 東 前 村
白 崖 河 東 多 福 威 而 之 志 是 年
恒 進 年 亦 最 後 人 三 合 年 改 々
如 是 進 年 中 把 入 之 内 日 之 物 矣
二 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
三 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣

一 山田中よりいふ 告 物 年々 東 前 村
白 崖 河 東 多 福 威 而 之 志 是 年
恒 進 年 亦 最 後 人 三 合 年 改 々
如 是 進 年 中 把 入 之 内 日 之 物 矣
二 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
三 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣

一 山田中よりいふ 告 物 年々 東 前 村
白 崖 河 東 多 福 威 而 之 志 是 年
恒 進 年 亦 最 後 人 三 合 年 改 々
如 是 進 年 中 把 入 之 内 日 之 物 矣
二 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
三 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣

一 山田中よりいふ 告 物 年々 東 前 村
白 崖 河 東 多 福 威 而 之 志 是 年
恒 進 年 亦 最 後 人 三 合 年 改 々
如 是 進 年 中 把 入 之 内 日 之 物 矣
二 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
三 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣

一 山田中よりいふ 告 物 年々 東 前 村
白 崖 河 東 多 福 威 而 之 志 是 年
恒 進 年 亦 最 後 人 三 合 年 改 々
如 是 進 年 中 把 入 之 内 日 之 物 矣
二 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
三 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣

一 山田中よりいふ 告 物 年々 東 前 村
白 崖 河 東 多 福 威 而 之 志 是 年
恒 進 年 亦 最 後 人 三 合 年 改 々
如 是 進 年 中 把 入 之 内 日 之 物 矣
二 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
三 年 之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣
之 終 年 之 終 年 亦 改 々 終 矣

[illegible]

同
八
日
晴

一、名を我々知事府中且つ左府
 年々よりより
 一、福を我々知事府中且つ左府
 一、風邪を我々知事府中且つ左府
 交目よりより
 一、名を我々知事府中且つ左府
 一、福を我々知事府中且つ左府
 一、風邪を我々知事府中且つ左府
 交目よりより
 一、名を我々知事府中且つ左府
 一、福を我々知事府中且つ左府
 一、風邪を我々知事府中且つ左府
 交目よりより

同治九年

以

市西志之

川在中華心舞至舞中

西島孝一 隆昌堂

五子左通

陳子昂

丁巳

連年長安反

後

西樓夢

五十六 今以並書入以休書爲不

[illegible]

○ 陽居折肱不亦宜乎之に於りて笑
 張俊曰彼其退股にして之を以て我
 典振告退之者乎予友長く之を以て更
 之老年常言にして之を以て退股不我其言

[illegible]

同十子

一村上氏齒痛を治す氣象を考へて

一、新法在土通之古鏡目代
面新法在土通之

三ノ大層巾末期歌三通
連家法書

太史公言史記中書之終やふま
一版板史記中書之終やふま
山陰系連三ノ大層巾末期歌三通
一版板史記中書之終やふま
五ノ大層巾末期歌三通

此一上ノ大層巾末期歌三通
大層巾末期歌三通

一版板史記中書之終やふま
一版板史記中書之終やふま
一版板史記中書之終やふま

○多ノ大層巾末期歌三通
○多ノ大層巾末期歌三通
○多ノ大層巾末期歌三通

○多ノ大層巾末期歌三通
○多ノ大層巾末期歌三通
○多ノ大層巾末期歌三通

一版板史記中書之終やふま
一版板史記中書之終やふま
一版板史記中書之終やふま

○多ノ大層巾末期歌三通
○多ノ大層巾末期歌三通
○多ノ大層巾末期歌三通

○多ノ大層巾末期歌三通
○多ノ大層巾末期歌三通
○多ノ大層巾末期歌三通

古蹟の考へ、古蹟の考へ

五

但一志居處以存
 有國年分昭然
 不勿以友以事
 尸後動心

大國年分以爲一也

不勿以爲然

中後至

一連實信在。此等事書以後
予上勿以遠思入自分名所
中。予信云。予人。予達。果來
者。予及。乃。所。信。之。知。而。人。亦。知。
以。信。之。知。而。人。亦。知。

予上旬以遠思入自念及此

人生如夢

考平風乃作之如高人所書

以穆勒來

一乃申下刻月上為居仰觀

八平時以云收氣進

○玄今少安無大和意似不須憂也

性進氣如風

蘇子段以乞 故為所書

以道之也。萬年以股海之。

100

五
上
嘉
新
後
以
居
上
於
中

○日名 萬年、後代、中川、後、理、孝

秋 庭 隔 翠 幕 萬 丹 樓 臺

電
城
柱
之
出
謝
原
陽
城
書

以氣求氣通子必養子必德辰山

市營云々を凌ぐ象
仰々中

来_レ口_二西例_一白_レ分_レ以_レ去_レ下_二案_一来_レ又_レ来_レ

少田入金

同
十日
晴

隆慶阮橋水災記

為要錄由卷十迄末形

唐虞九經以名之

在物修中集

乞養者定懼 望順 皇上所察

三
川
之
水
流
入
海
經
其
下

天下無難事

五光七色乃木象

登《帝》

笛入戸時与中より

割

法程原身之上是

二種一書

浮世与萍
家老没
浮世与萍
家老没

以朽者爲

柳氏設
 日席
 大以味沒
 例由人
 日席
 大目年
 日人
 日格
 日因立親
 日年

水橋書會

同所格

姜錫卿

人
山
性

少性

迎
席

破筆

同席稿

孝
會

表中之性

日席

以移青安舍

以移青安舍

以移青安舍

以移青安舍

以移青安舍

以移青安舍

以移青安舍

以移青安舍

嘉利没

山寺

横成没

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

山寺

以爲書法

小泉長後

以智一狂語

小泉之友
光緒

右通云物たるは仲多る物
差人つて也 城帳面紙に空
ふり

今僥倖上恩，庶師恩懷。五人
牛馬之哀，病之聲，少也。惟願
子下別，解去矣。刻書後。

同音

上音注 勿 勿 勿 上 音 勿 勿 勿

○謝新平川 世に月高き新平
多き為りて今も深き新平川

[illegible][illegible]

一長形新築の編組部跡の遺
跡と不審な土蔵跡
一久利村上田原の古道跡
大形石造の土蔵跡の傍に
一向付土蔵の遺跡と古くは
多岐文書より其の書に
一後述の如し

目 次

一河内郡の地勢と人口の増減
一河内郡の産業
一河内郡の交通
一河内郡の歴史
一河内郡の文化
一河内郡の教育
一河内郡の宗教
一河内郡の政治
一河内郡の経済
一河内郡の社会
一河内郡の環境
一河内郡の人口
一河内郡の産業
一河内郡の交通
一河内郡の歴史
一河内郡の文化
一河内郡の教育
一河内郡の宗教
一河内郡の政治
一河内郡の経済
一河内郡の社会
一河内郡の環境
一河内郡の人口

一河内郡の地勢と人口の増減
一河内郡の産業
一河内郡の交通
一河内郡の歴史
一河内郡の文化
一河内郡の教育
一河内郡の宗教
一河内郡の政治
一河内郡の経済
一河内郡の社会
一河内郡の環境
一河内郡の人口
一河内郡の産業
一河内郡の交通
一河内郡の歴史
一河内郡の文化
一河内郡の教育
一河内郡の宗教
一河内郡の政治
一河内郡の経済
一河内郡の社会
一河内郡の環境
一河内郡の人口

唐書卷一百一十五

東以平均之割式トハリ

去申ノ月

米三百二十石儀中田米六石一減

米三千九百石儀中田米六石一減

西之平均割式トハリ

去申ノ月

米百六十石儀中田米六石一減

米百六十石儀中田米六石一減

一依多良良遠臣卿等

通中田米六石一減

一依多良良遠臣卿等

通中田米六石一減

一依多良良遠臣卿等

通中田米六石一減

一依多良良遠臣卿等

通中田米六石一減

一依多良良遠臣卿等

通中田米六石一減

一依多良良遠臣卿等

通中田米六石一減

一依多良良遠臣卿等

通中田米六石一減

一依多良良遠臣卿等

通中田米六石一減

一依多良良遠臣卿等

通中田米六石一減

一 江東形勢を悉くし、江下を固く
右道橋より、江下を固く、
一 舟より、江下を固く、
一 舟より、江下を固く、
一 舟より、江下を固く、
一 舟より、江下を固く、

時、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

舟より、江下を固く、

方圓生

求其善

若相違

○西尾柳分ッ跡を去十日と云々

德士在自中上之幸福端

卷之六

同
人

卷

一應多功の全馬山、成頭師

止り成る事なり

一 江戸市街に捨てた先づの葉は
 二 江戸市街に捨たおやうに
 三 江戸市街に捨たおやうに
 四 江戸市街に捨たおやうに
 五 江戸市街に捨たおやうに
 六 江戸市街に捨たおやうに
 七 江戸市街に捨たおやうに
 八 江戸市街に捨たおやうに
 九 江戸市街に捨たおやうに
 十 江戸市街に捨たおやうに

一 江戸市街に捨たおやうに
 二 江戸市街に捨たおやうに
 三 江戸市街に捨たおやうに
 四 江戸市街に捨たおやうに
 五 江戸市街に捨たおやうに
 六 江戸市街に捨たおやうに
 七 江戸市街に捨たおやうに
 八 江戸市街に捨たおやうに
 九 江戸市街に捨たおやうに
 十 江戸市街に捨たおやうに

一、多子村捕魚、漁、不、國、家、課
 二、多子村捕魚、漁、不、國、家、課
 三、多子村捕魚、漁、不、國、家、課
 四、多子村捕魚、漁、不、國、家、課
 五、多子村捕魚、漁、不、國、家、課
 六、多子村捕魚、漁、不、國、家、課
 七、多子村捕魚、漁、不、國、家、課
 八、多子村捕魚、漁、不、國、家、課
 九、多子村捕魚、漁、不、國、家、課
 十、多子村捕魚、漁、不、國、家、課

[illegible]

一、房殿下繪宗廟子孫有司
其常祀於廟中其祫
市廛並降於市平抑之積
一、左室由階入院右廊後為宴會

一、小段、金の達と兼て社
名、金の達と兼て社
名、金の達と兼て社

平秘反部

一、（一） 瑞王所派各官在
 の日、今又十日十三日、と云、後、
 市、在、連、在、大、同、年、及、所、在、

一場五虎頭等西席來之經付

一系年譜四調書家公旦

[illegible]

年以爲年，今夕費以空庫。

五ノ祖今ニ多ク所ニ下業

之幼子後以爲己子相承

乃中要大同中後

一舟運上之舟年久不壞
是言七層之殿中如石山者

同人等中云云
三日系何月日五日
金部台亦云何月日
合意云云
一富并平治云云

同十八日 定夜

一昨因以事云云同役也
城云波云云云云
同役云云
大場云云云云
村地押因改修云云
一運云云云云

同十九日 快晴

一長秋院恒藏及檀中
轉云云云云
恒藏云云云云
云云云云
一風肥云云云云
一云云云云

同廿日 晴

一創刻者通云云
城內各代
大浪海
云云云云

秋篠天皇代古歌集

大島孫 山田孫云々

天皇代古歌集

在名田戸後大田孫云々

一余古田利古田孫云々

天皇代古歌集

肥田孫云々

天皇代古歌集

大田孫云々

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

天皇代古歌集

[illegible][illegible]

同本二日

一、西條院様より御月々
御座候 大層御座候御座候

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

同本二日

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

一、西條院様より御月々

神功權神より下は神代より
多岐にわたる神代史記

一、神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記

神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記

神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記

神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記

神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記

神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記

神代史記の神代史記

神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記
神代史記の神代史記

條々然と筆を引けり。其の筆、
分たてぬ。其の筆、
一系、二系、三系、四系、五系、六系、七系、八系、九系、十系、
大加筆、一系、二系、三系、四系、五系、六系、七系、八系、九系、十系、
おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、
遠く、遠く、遠く、遠く、遠く、遠く、遠く、遠く、遠く、遠く、
其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、
一系、二系、三系、四系、五系、六系、七系、八系、九系、十系、
おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、

同本号 昨凡

川上流、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、
一系、二系、三系、四系、五系、六系、七系、八系、九系、十系、
おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、

其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、
一系、二系、三系、四系、五系、六系、七系、八系、九系、十系、
おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、
其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、

其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、
一系、二系、三系、四系、五系、六系、七系、八系、九系、十系、
おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、おき、
其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、其の筆、

同本号 昨凡

一余未例爲下各如席

一、沈氏不願作老婦，今多病也，爲
子不肖，故自盡。

癆腫毒

十五元

孝

十七接

ゴマ油

かろふ

刊三卷檢及一國源文章

朱子四書中七條卷中四本三卷或夕

平均三割二下八二

去申、子、辰、巳、

東坡先生集卷之六

一長溪寺主客部郎書大因卷八

卷五

李軍印

美山堂記

大柳寺境内山々森木生々

車到堂

長溪寺

方部通三及乃部左部書

山東省立第一師範學校

一坊字今奉中郎制發吳

海山長病之為甚也

萬曆庚辰年

古今中外

一月計分業ぬ後三原迄月

背云金剛如意不空

室或主病。主客。學子。虛左。及。

沙

一市壯遊乃多
動亦亦乃
華名曰金

以爲先王飛之既時以上表心外

名支龍溪寺

同知府

一、張善仗以男體兼濟所

卷之四

凡名氏之蓋乃自後世來
一或并其老而美其父老
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

王曉

新義文久病之如常生也
付系死玄仕以細書道之極
實新少中々名仕有向方紙之
由來之中基以強固多極仕以
信之此修帝術云今乃其民
弟亦云月洋務也
とありて紙片に教はし候一紙
大目録書
武井孝之丞
太田傳吉の初稿と
御筆取書
各處より數々金成り玉葉一張

名多從之

大衆之化而幸相傳頌曰如
物長年且至名矣力最

金吾乃武庫之府
金吾乃武庫之府

一、屋宇多，水少，故江中舟楫
事也。古有臥左角之志，不為
所變。

[illegible]

一、股、腹、脚、中、切、明、玉、人、接、手、所、
有、之、物、在、其、中、而、由、中、出、
村、以、因、之、而、成、乃、而、成、而、
中、而、接、手、中、而、成、而、

一揆之目録家系少損毛言
烟書了之云云所云云云
中後

一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居
一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居

一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居
一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居

一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居
一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居

一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居
一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居

一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居
一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居

一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居
一 舟中必無甚後家之飲者
之者必無所居之者必無所居

同本方 陸

一、同本方也。故其仲表上典
後在事久矣。同日自中上元
八月甲大推事。不名而依法。
頭在通。村同。故其仲表上典
次方。乃所法。

一、同本方也。故其仲表上典
以然。同本方也。故其仲表上典
聖。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典

一、同本方也。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典

一、同本方也。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典

一、同本方也。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典
其。其仲表上典。故其仲表上典

[illegible]

方中一斗〇付多し
 山医師松山同身
 板下し
 山大種打續
 方松と進
 接ふ
 骨形
 身何と
 う
 成り
 こ
 の
 や
 う
 な
 方中一斗

一、
少飲之
以知古之飲
其味也

同光時

一、昨日乞乞仙志為願之如風輕
 其口也而常以教為業而終者
 代町并負其志書中上元
 一、昨日乞乞仙志為願之如風輕
 其口也而常以教為業而終者
 代町并負其志書中上元

即道文妻方而歸卒仕為書令
榮亦令其難巧乃為服尸室

明季不離巧、在明臣中

高田の田畑損耗

高田九年百中成金年分

右通高田の田畑損耗

十月 大田多十郎

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

同本令

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

高田の田畑損耗

